

2016' 合格体験記

東京学芸大(教) 文教大(英) 現役合格 浜 由貴 (北本北小→宮内中→熊女高)

私は中学2年で東大ゼミに入塾した当初は英語が大の苦手でした。しかし、塩田先生の英語の分析(SVOCM)の授業を受けて体に染み込ませることで、みるみるうちに英語の成績が伸びていきました。でも、分析で重要なのは日本文だけやったら終わり、というようにただ表面的に分析しても意味がないということです。英文または日本文を分析したらそれを一個一個照らし合わせながら解いていくことです。問題文を分析して一個一個確認しながら答案を作ることは英語に限らず国語や数学などにも共通することです。塩田先生は英語の授業を通して「勉強の本質」を教えて下さいました。

高校生になって私は部活のバスケを続ける決心をしました。学校の勉強と部活と塾の両立は決して楽なものではありませんでした。塾に来るのは部活が終わって20時過ぎ。勿論、体は疲れていて眠くなってしまいます。塾では学校の予習でいっぱいいっぱい塾のテキストを自分で進めることは出来ませんでした。その代り学校の定期テスト前は学校が終わるとダッシュで塾に来て大学受験の基礎を身に付けるために必死で勉強をしました。しかし、それは暗記の勉強だったので、いざ志望大学の過去問を解いてみると全然点は取れませんでした。いくら学校の勉強が出来ても過去問が解けない現実を知り、大学受験から逃げたくなった時期もありました。それでも、塩田先生は「頑張れ！今は取れなくても繰り返せばあがるから！」と何度もはげまして下さいました。その言葉を頼りに私は、6月に部活を引退してから兎に角、過去問を何回も解きました。初めから試験時間を計って解き、2回目は青ペンでもう一度自分の頭で考え直し、3回目は資料を使うなどして調べて直す。これらを徹底してテスト直しをしました。過去問演習が高校受験や大学受験合格への一番の近道だと思います。おかげで私は高校、大学共に第一志望の学校へ進学することが出来ました。

私が初めて塩田先生のもとへ行ったときに先生が「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」とおっしゃっていたのを今だに覚えています。正にその通りの塾でした。東大ゼミは英語の授業と徹底した過去問演習、さらに授業の合間での先生の演説(人生や世界の動きなどのお話し)などなど受験に勝つための魅力でいっぱいです。私は部活をやっていたので、ほかの塾生より勉強量は断然少なかったと思います。でもこんな私でも学芸大に受かったのは塩田先生のおかげです。だから部活やっている人でも大丈夫！塩田先生の言うことをしっかり聞いて、引退後は勉強一筋になれば合格への道がひらけてきます。ですから最後まで諦めずに頑張ってください。

塩田先生、約5年間お世話になり、先生には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。